

霧島山

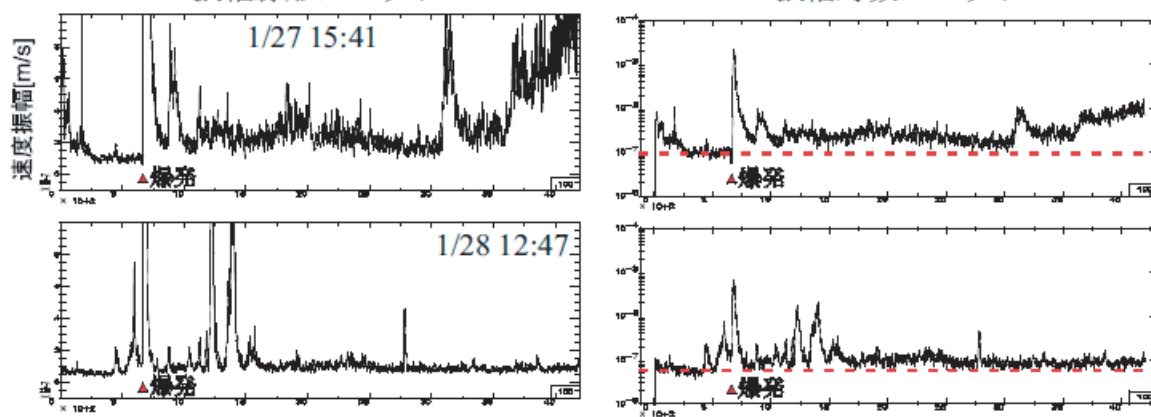
○溶岩だまり形成前後での爆発地震の変化

前回の予知連以降では、3月1日に空振を伴う爆発的噴火が観測されているが、全体的には空振を伴わない噴火の発生が卓越してきているように見える。前回の提出資料の一部に新しい爆発・噴火イベントを加え、爆発地震後の噴火微動の継続の様子を比較した。最下段の3月13日17時45分の噴火では、高度4000mまで噴煙が上昇したと報告され、映像では火山灰の放出がしばらく続いたように見えた。地震波で見ると、主たるフェーズは1000秒程度（約16分半）で終了したと判断される。現在のところ火山灰放出が比較的短時間で終わるといった傾向に、大きな変化はなさそうである。

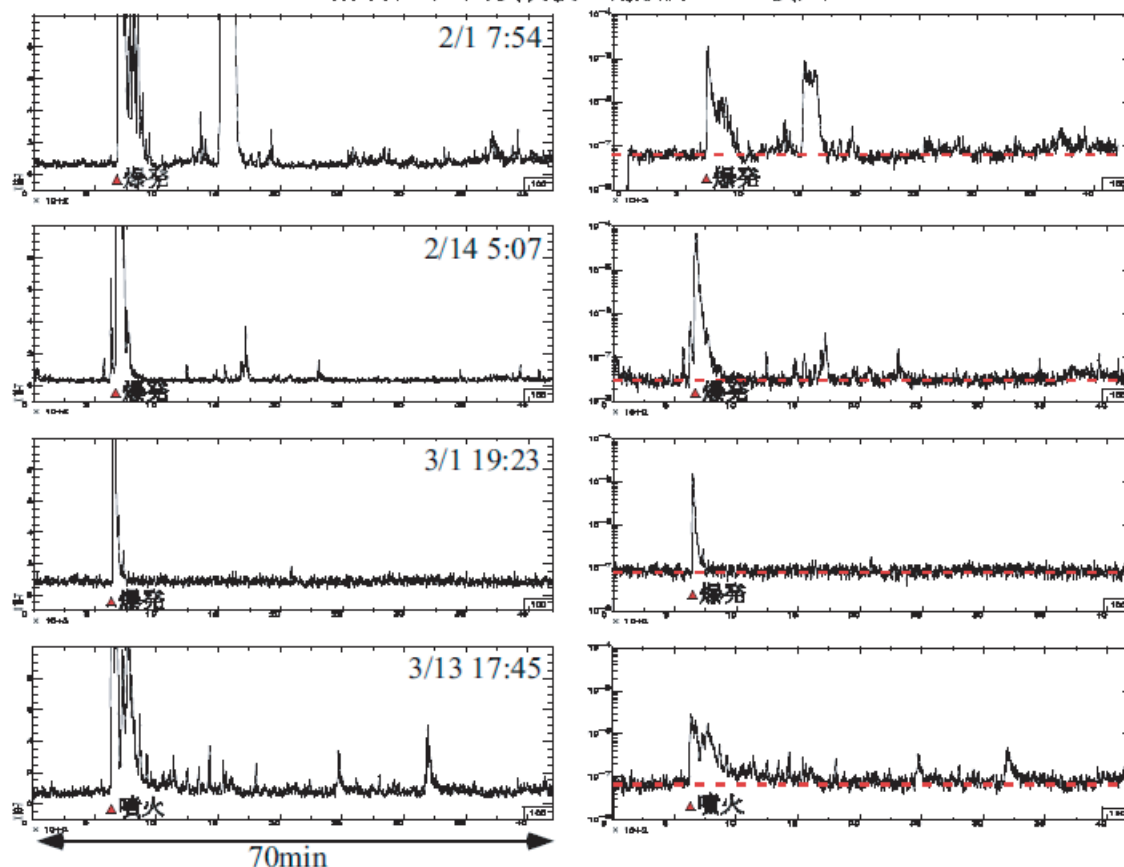
溶岩だまり形成前の爆発

振幅線形プロット

振幅対数プロット



溶岩だまり形成後の爆発および噴火



(青山) (謝辞) 資料作成には、防災科学技術研究所Hi-net都城北観測点の地震波データをダウンロードして使用した。

霧島山